

学習者をとりまく状況変化と国語教育

——授業でつくる信頼関係——

大里 康 暁

現在の赴任校で感じている生徒像を述べてみる。そして、その生徒像との因果関係ははっきりしないが、今収集し得るその生徒たちをとりまく状況もあわせて述べる。

一、熊野中学校で感じること

熊野中学校の紹介

熊野町は、広島市の東に位置している、「筆の里」として知られた町である。広島市までの距離も近く、ベッドタウンとして多くの団地を抱えている。昔から熊野に住む人も多い。教育熱心で、学校と地域の距離は大変近い。

本校は、生徒総数四〇七名、クラス数四・四・四の全一ニクラスの中規模校である。三つの小学校から入学してくる。

学習者をとりまく現在の状況

○情報機器は身近なものではない。

- ・ 学校でPHS・携帯を持っている生徒を見つけたことはない。
- ・ コンピュータのある家庭はごく一部である。

・ 学校へのコンピュータの導入は、今年の一二月になる予定である。

○テレビゲーム

- ・ 大変多い。「禁テレビゲーム」を週的目標にする生徒もいる。
- ・ 読書も、テレビゲーム(RPG)を文章化したものしか読まない生徒も少なくない。

○夜更し

- ・ 日付が変わるまで起きている生徒が多い。そのため、常に遅刻をする生徒がいる。クラスの中の三分の一が、一学期に一〇回以上の遅刻をした。

○家庭の変化

- ・ 若い親が多い。金髪の母親も目立つ。授業参観の時に、ガムを噛み続ける親、おしゃべりを止めない親もいる。
- ・ 親が楽しむ。カラオケ・パチンコ。
- ・ 子どもに注意できない。物わがりのいい親(子供に対しては)が多い。

○習い事

- ・ 多くの種類。

・帰ってからはほとんど習い事的时间。

・遊べない。遊んでいない。特に体を動かしては。運動能力の低い子供が多い。

○子供会の崩壊

・夏休みのラジオ体操もどんどんなくなってきた。

・縦関係の欠如

○学校批判・学校不信・対教師批判

・どの親からも強く感じる。このことが子供にも伝わっている。
・問題のすり替えが多い。たとえば、いじめ。保護者を呼んでも、相手（いじめられた側）の悪いところをあげるばかり。
開き直り。保護者を呼ぶことで、かえって混乱することが非常に多い。

○家庭の多様化・価値観の多様化

・各家庭での考え方の違いが、指導のネックになることも多い。

(生徒指導関係)

●自然との距離は近い。

・つり・昆虫採りなど自然の中には無理なく入っている。(とつた昆虫は換金するが…)

現在の学習者の状況

○他人との関係を築きにくい。

・「深く」つきあうことも難しい。「広く」つきあうことはもっと難しい。

・流行の言葉「存在を消す」…自分の気に入らない相手に対して。

・自分を守る意識が強い。

・一〇〇か〇か

○自分の気持ちを抑えない。(対人関係以外)

○だるい・たいがい

○辛抱がない。反骨心がない。わがまま。

・「帰れ」(クラブなどで態度が悪い場合など)と言われたら帰る。

・自分のことだけしか考えない。自分が楽しければいい。自分の仲間内に認められればいい。

○信頼関係のあるなしで態度に大きな差がある。

・態度の使い分け。

○礼儀の欠如。

○時間の感覚の欠如。

○まっすぐ立てない。一つの姿勢を保てない。

○話す言葉(内容)の欠如

・女子の手紙のやりとり 悪口でつながる・異性の話

・女子の手紙はすごい数：結びつきを切ることが不安。

※子ども自身が変わったとすれば、親の学校観が大きな影響を与えているのではないか。親の子への迎合。盲信。

※遊ぶ環境 対人関係の作り方を学ぶ場の崩壊

【授業への思いⅡ提案の中心】

他学年への指導が通りにくいことに象徴されるように、人間関係のない教師・信頼関係のない教師は全く意識されない。が、信

頼関係がきちんと結ばれば、これまでの赴任校にはないほど心を聞ききってくる。どこでどうやって信頼関係を結ぶかが、(どこの学校でも同じであろうが)もっとも大切なこととなっている。

また、生徒同士も人間関係を築きにくい。お互いを認めあい、支え合う集団を作ることが急務となっている。

以上の二点を、国語科の授業の中でも大切にしていきたい。勉強をわかりたいという思いは、誰もが持っている。それを学ぶ場である授業の中でこそ信頼関係・人間関係を作ることができるのではないか。その思いから、次のことを意識して一学期に授業を行ってきた。

二、今年度の授業の実際

二〇〇〇年度 中二授業で意識していること

「話す」

○話ができること

お互いに分け隔てなく、必要なことを必要なときにきちんと話が出きる。技能的にも、人間関係の面でも。

○声が出せる。

「聞く」

○他者の意見を聞く。自分との違いを意識する。

○人の話をきちんと聞ける。

みんなの前で話すことができる。

※それぞれの教材で何か表現活動を入れる。

「できた」「わかった」という実感を持たせる。

授業を成立させる、授業に集中させる大切な点。

時間はかかっても、丁寧に行う。

きちんと評価する。

点数化する。

これまで成績は印象で学期末につけることが多かったが、作文はじめノートの取り方、授業態度など、すべて点数化した。私自身が生徒をよく見るため、活動が多くなるので、それがだれないため。方法としていいのかわからないが、授業は確実に変わった。

授業に取り入れた活動 教科書「新しい国語 二」東京書籍

一 作文

A 教科書P八「春のいぶき」読解後

題「私の感じる春のいぶき」

自分が無意識に感じていることを掘り起こしてみる。

原稿用紙一枚。

B 教科書P二二「生き物たちの智慧」読解後

題「(自然の中で)『生きる』ことについて感じること」

二〇〇字以内

二 発表

A 「私の感じる春のいぶき」発表 全員

B 教科書P一六「木」(詩)

班で役割分担して朗読。

C 話し合いゲーム

教科書P三六「意見を述べる 立場をはっきりさせて」

全員実施

三 班活動

A 「木」朗読時

役割分担・練習

B 話し合いゲームの準備

四 さちんと聞く

A 教科書「話を聞いてメモを取る」

中間テストで放送による「聞き取りテスト」実施。(電

B 話し合いゲームの判定役として

C 「木」の朗読を聞いて(評価)

D 「私の感じる春のいぶき」を聞いて(一言感想)

授業内容

「春のいぶき」

授業過程(全八時間)

第一時 音読の練習・課題「筆者が感じた「春のいぶき」が書かれているのはどの部分か」について、個人で考える。

第二時 課題を班でまとめる。(班活動)(資料一)

第三時～第五時 読みとりを行う。

第七時 作文「私の感じる春のいぶき」を書く。(作文)

第八時 作文を発表する。【発表】

「木」

授業過程(全五時間)

第一時 詩の特徴に気づく。同じ言葉の使用・繰り返し・対応など。(資料二)

第二時 工夫読みのポイント・組み合わせによる違いをまとめる。それに気をつけて、自分のグループ朗読の台本

を作る。(資料三)

第三時 班でグループ朗読の台本をまとめ、それに従って練習を行う。(班活動)(資料四)

第四時 グループ朗読発表会。ビデオ撮影。【発表】

第五時 ビデオを見ながら、自分の反省をまとめる。(資料五)

「生き物たちの智慧」

授業過程(時間)

第一時～第三時 読みとりを行う。

第四時 作文「(自然の中で)「生きる」ことについて感じる

こと」を書く。

【作文】

「話を聞いてメモを取る」
授業過程（全一時間）

第一時 プリントを使用して、教科書本文に書いているポイントを読みとる。（資料六）

※期末テストで聞き取りテストを行う。（聞く）

「意見を述べる 立場をはっきりさせて」

授業過程（全七時間）

第一時 プリントを使用して、教科書本文に書いているポイントを読みとる。（資料七）

第二時 VTR（教室ダイベート入門⑤モデルダイベート）
バンドイ・ミュージック・エンターテイメント）を視聴して、雰囲気・やり方を理解する。各班の論題を決定し、個人の準備をメモに取り組む。（資料八）

第三時～第四時 班で話し合いゲームの準備を行う。（班活動）
第五時～第七時 話し合いゲームを行う。（発表）

（資料九・一〇）

課題と反省

授業の雰囲気は、昨年度に比べても良くなったように思う。これまで「理解しているはず」「ここはわかるだろう」と飛ばしてきたことを、踏みとどまって言葉にし、板書にしてみた。うなずく雰囲気が出てきた。また、生徒が活動する場面が増え、評価

できる内容が幅広くなり、昨年度は見えなかった生徒それぞれの特性も見えてくるようになった。

それと同時に、生徒との関係も良好になってきている。厳しい指導もはぶかず、聞くことができるようになっていく。

課題は、班活動の充実である。きちんとした話し合いにはまだまだほど遠い。力のある生徒の負担が大きくなっているのは、自分の指導力不足につきる。今後、さらに班内対話という形での活動も取り入れていきたい。

この課題もあり、生徒相互の結びつき・理解を強め、深めるには至っていない。ふだんの生活の中での問題も山積している。

二学期には、「平家物語」のクラス群読をさせてみたい。班活動を仕組み直し、その輪をクラス全体へと広げていきたい。

（広島県熊野町立熊野中学校）